

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語/言語文化】

1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要）

1年普通科クラスで、ほぼ全員が4年制大学への進学を希望している。授業には前向きに取り組み、問いかけに対しても反応がある一方、計画的に週末課題に取り組むのが困難な生徒がいる。古典「作品」自体は現代と比較しながら楽しんで読めるが、古典「文法」の学習についてはやや後ろ向きである。古文の教材では『児のそら寝』『絵仏師良秀』を取り上げ、用言の活用を学ぶとともに「文章の内容を叙述に即して的確に読み取る」（指導事項イ）を指導した。本単元では、古文を読むために必要な「助動詞」を学ぶだけではなく、現代語との繋がりについて考えさせることで、理解を深めさせたい。

2. 単元名「助動詞について、文語のきまりを理解する。」（全5時間）

教材：教科書「古文を読むために4」

3. 単元の目標

| | |
|----------------|---|
| 知識及び技能 | ○古文を読むために必要な「助動詞」の知識を理解する。 ○時間の経過や地域の文化的特徴などによる言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 |
| 思考力, 判断力, 表現力等 | 【読むこと】オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方, 感じ方, 考え方を深め, 我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 ○材料A～Cを活用し、個人やジグソー活動を通して課題に取り組み、古典文法で学んだ助動詞の知識を活用して、現代語の「た」の意味の変遷とその説明について考え、まとめることができる。 |
| 学びに向かう力, 人間性等 | ○材料A～Cを踏まえて、古典文法で学んだ助動詞の知識を活用して、現代語の「た」の意味の変遷とその説明について考え、まとめようとしている。 |

4. 言語活動

ア 我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

助動詞「た」の意味はどのように変遷してきたのか？

| 考えるための材料A | 考えるための材料B | 考えるための材料C |
|---|---|---|
| 助動詞「き・けり・つ・ぬ・たり・り」についての資料 | 「テンス」「アスペクト」についての資料（深澤愛『現代日本語をちゃんと説明するための古典文法入門』より） | 「モダリティ」についての資料（小田勝『古代日本語文法』ほか） |
| 想定される活動 | 想定される活動 | 想定される活動 |
| 「たり」は元々「てあり」であり、原義は存続（～ている）であることを理解する。また、「けり」「たり」「り」は「あり」から派生した語であり、もともとは「～ている」という意味を持っていることに気づく。 | 言語学の用語である「テンス」や「アスペクト」という概念を理解し、整理する。 | 言語学の用語である「モダリティ」という概念を理解する。また、〈事態の側面〉と〈認識の側面〉から「た」の意味を整理する。 |
| それぞれをエキスパート資料とし、ジグソー活動によって統合し、課題に取り組む。 | | |

